【中国からの日本ウオッチング―人民日報の日本関連記事から】

この５月 15 日の人民日報に『栗原小巻 - 銀幕の内外に美を広める』（副題「彼女が出演した映画は多くの中国人観衆を感動させ、彼女は中日文化交流に力を尽くしている」）と題する記事が載りました。

略歴では、1978 年、彼女が主演した＜**望乡**＞＜**生死恋**＞の二つの作品が中国で公開され、中国映画界に栗原小巻ブームを巻き起こし、その後 20 数年、各種の中日友好活動に参加し、現在、日中文化交流協会常務理事である、と紹介しています。

上述の２作品の他、彼女は日中合作映画にも相次いで出演し、中国映画資料館は彼女の作品展を開催した事があり、CCTV も特集を組んだ事がある、とも紹介していますが、この記事の後半４割を占めて要るのが、彼女が日中文化交流に如何に尽くしてきたか、という文章。そこから、今の日中間のわだかまりを何とか打開したいという中国側の思いがひしひしと伝わってきます。

栗原小巻は昨年既に還暦を迎えていますが、その彼女を大きく取り上げなければならないほど、最近の日中関係が経済面の結びつきにのみ頼り、心の交流による財産を目減りさせている、とも言えましょう。

官対官の付き合いだけに任す日中交流では、一たび国家エゴが衝突すれば、どんな悲劇につながるかわかりません。民間交流を深め、互いに理解しあうことは、宋襄の仁の危うきを主張する人、管鮑の交わりの大事さを説く人、双方に、地に足のついた“平台”を提供することと思います。

2006 © 著者：三潴正道　㈱朝日出版社